

令和 7 年 9 月の解説（府県天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、北・東・西日本は、天気は数日の周期で変わったが、東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多く、東日本太平洋側では旬間日照時間がかかなり多かった。一方、北・東日本日本海側を中心に、前線や湿った空気の影響で大雨となった所があった。また、4 日から 5 日にかけては台風第 15 号の影響で、西・東日本太平洋側では大雨となり、宮崎県、静岡県、神奈川県では線状降水帯が発生した。静岡県などでは竜巻が発生した。上旬の終わりは本州付近に前線が停滞し、長崎県と熊本県で線状降水帯が発生した。沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかかなり高かった。旬平均気温平年差は、東日本で+2.9℃、西日本で+2.6℃、沖縄・奄美で+1.1℃となり、1946 年の統計開始以降 9 月上旬として、東・西日本では 1 位、沖縄・奄美では 1 位タイの高温となった。

中旬は、北・東・西日本は、天気は数日の周期で変わったが、本州付近に前線が停滞しやすく、前線に向かって湿った空気が流れ込み、日本海側を中心に大雨となった所があった。このため、旬降水量は東日本日本海側でかなり多かった。一方、沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬間日照時間はかなり多く、旬降水量は少なかった。旬平均気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすく、北・東・西日本では低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ日もあり、沖縄・奄美では晴れて気温が上昇したため、全国的にかかなり高かった。沖縄・奄美では旬平均気温平年差が+1.5℃となり、1946 年の統計開始以降 9 月中旬として 1 位の高温となった。

下旬は、北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。このため、旬降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は、北日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、本州付近を低気圧や前線が数日の周期で通過し、21 日には北海道で線状降水帯が発生し大雨となった所があった。西日本では期間前半に高気圧の周辺の湿った空気の影響を、後半は前線の影響を受けやすかった。このため、西日本日本海側と西日本太平洋側の旬間日照時間は少なかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすく、旬間日照時間はかなり多く、旬降水量は少なかった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、全国的にかかなり高かった。晴れた日が多かった沖縄・奄美の旬平均気温平年差は +2.2℃となり、1946 年の統計開始以降 9 月下旬として 1 位の高温となった。

【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）

より 1 ポイント低い 81%で、明後日予報は例年値と同じ 79%となった。地方別の適中率では明日予報は北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また明後日予報は北陸、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3°C 小さい 1.2°C で、全ての地方で例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1°C 小さい 1°C で、中国地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。

(注) 例年値は 2015 年～2024 年の平均値です。

【11 月の天気予報の利用にあたって】

11 月は冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。雪が降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降雪量が少なくても交通や生活にとって大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。